



2002

No. 1

The Natural Science Publishers' Association of Japan

自然科学書協会会報

発行人・朝倉邦造
編集・広報委員会
発行・2002年1月15日

社団法人 自然科学書協会

〒101-0051 東京都千代田区神田錦町3-20 文化産業信用組合内 TEL03-3292-8281

一丸となって不況反転の年に

理事長 朝倉 邦造

新春のお慶びを申し上げます。

出版業界は5年連続のマイナス成長で、過去に経験のない厳しい新年を迎えました。今年こそ、会員会社の英知を結集してこの逆境を反転する年にしたいと考えています。

複写問題、著作権問題、流通問題など業界が抱える問題は山積で、これまでもその解決に協会挙げて取り組んできました。それでも、活字離れ、本が売れないなど、協会として取り組まねばならない懸案が、まだまだたくさんあります。今回の出版不況の最大の要因は本が売れないことですが、その根本として読者の求める本を真剣に作ってきたかと言う事に、思いが至ります。右肩上がり時代の生めよ増やせよで安易に出版をしてきたことが、いつしか読者離れを起こしたともいえるのではないのでしょうか？

日本を世界一の先進国に押し上げてきた「科学技術」。それを支えてきたのが、我々自然科学を中心とした専門書です。少資源国の日本の根幹は、科学技術にあります。これからも、当協会会員会社の専門書なくしては日本の未来はありません。そのためにも上記のような問題に、会員会社がより一丸となって取り組む必要があるように思います。そんな年にしたいと考え、皆さんのいっそうのご



努力とご協力をお願い申し上げます。

ポスト再販時代の課題

専務理事 志村 幸雄

ポスト再販時代を迎えた日本の出版界は、「再販存置」という所期の目的を達成したものの、長びく出版不況から依然脱却できず、明るい展望を持ってないのが現状です。のみならず、「出版者の権利」の法制化問題や複写権・違法コピー問題、流通改善・弾力運用問題などさまざまな課題に直面し、具体的な対応策が求められています。このことは専門書・学術書出版の一角を形成する私ども自然科学系出版社にとっても例外ではなく、新世紀の第2年目を迎えた本年は、これらの課題を自らの問題として受け止め、解決の糸口を探り出す年にしたいものです。

再販問題については、われわれ出版界の喉元に突き刺さったトゲとしてかねてからの懸案だったわけですが、昨年3月、存置の方向で決着を見たことは喜ばしいことです。ただ、公取委の公表文の中で存置期間を「当分」と限定したり、「今後とも……廃止について国民的合意が得られるよう努力を傾注する」としていることには首をかしげざるを得ません。公取委との「対話」が当初予定の回数をはるかに越えて十数回に及び、その場での議論も出版再販制度の本質論に踏み込んだ、中身の濃いものになったことを考えれば、この期に及んで何をか言わん、というのが正直な感想です。したがって、「当分」とはいつでもこ

こ数年を意味するのではなく、10年のオーダーで捉えるべき性質のものでしょう。

弾力運用への対応は、再販存置への道筋の中から生まれた新しい課題といえます。われわれの専門書は、比較的小部数のものを長期間にわたって安定的に供給していくことが前提となっており、本来、時限再販をはじめとした非再販本化が困難な分野です。しかし、内容的にすでに斬新さを失ったもの（たとえば、内容の陳腐化などにより市場に流通していないもの、過去の年報・年鑑類）や汚損本のたぐいについては非再販本として割引販売が可能ではないでしょうか。いずれにせよ、対読者サービスという視点から考えても何らかの対応があってよいものと思われま。

弾力運用の一環として、出版社の企画による書目・期間および場所限定の割引販売は、出版、取次、小売業者間で取り交わされている再販売価格維持契約書でも認められているところです。しかし、書店などで謝恩価格販売を行う場合、新刊書まで割引販売を行うことは、一物二価の弊害をもたらす恐れがあり、これは避けなければなりません。また、この種の販売を実施する場合は、公平性を維持するためにできるだけ多くの書店に働きかけること、さらに事前に広く書店に向けて広報活動を行うことが求められています。

最後に、出版者の権利問題は、著作権審議会が1990年に、著作権法上、出版者に固有の権利を認めるよう提言してからすでに10年を数えます。しかし、この提言はいまだに棚ざらし状態にあり、著作権法の改正に着手していないのが現状です。折りしも、書協の著作・出版権委員会第一分科会は最近、この問題に関する報告書をまとめ、保護内容や権利行使のあり方に言及しています。

この権利は、著作隣接権と呼ぶべきもので、出版物の複写権、貸与権、頒布権などに関わるものです。なかでも複写権問題は、違法コピーの氾濫、日本複写権センターによる「白抜きR」の権利処理業務停止問題（JCLSはその受け皿の1つ）などがあり、私ども自然

科学系出版社にとっても他人事ではありません。科学技術振興事業団などが著作権法31条を盾に行っている文献複写サービスも、合法性が認められないばかりか膨大な量に上っており、当協会会員が刊行の専門誌の販売に深刻な影響をもたらしております。これらの問題に対処するためにも、出版者の権利の法制化は喫緊の課題であり、当協会としても適正かつ具体的な取り組みが必要と考えています。

STMの現況

自然科学書協会が準会員としてSTM (The International Association of Scientific, Technical and Medical Publishers) 協会に参加してから6年が経過した。その間、世界の出版業界が直面した電子化という大きな環境の変化は、今も終息をみないどころか、その速度を速めています。ここでは、このような変化の中で常に主導権を保ちつつ、STM出版界の正当な権利を主張、保護してゆくためSTM協会が関連団体との連携を通じて繰り広げている活動の一部を紹介します。（詳細はwww.stm-assoc.orgを参照願いたい）

●CrossRef：1999年のSTM理事会で起案され、翌1月に正式に開始したCrossRefは、現在まで参加81社の4,780誌、3百万記事がデータベースに収録され、DOIを使った効果的なデジタル交換による相互のリンクサービスを提供しています。

●国際的な文書配布に対する見解書の作成：電子的文書配布サービスの実態を調査した上で、図書館を中心とするサービス供給者との対話の中でSTMの見解を示しています。

●STM許諾指針の改訂：STM会員社間の許諾事務の簡易化を目的としたSTM許諾指針を、電子媒体を考慮したものに改正するため、2002年総会を目指し草案作りが始まっています。

●セミナーの設定：「ジャーナル編集・制作」、「電子出版のビジネスモデル」など、実務

上・ビジネス戦略上有益な数々のセミナーを準備し、収益アップのために学ぶ機会を提供しています。

●利用統計：STMオンライン出版物の利用統計の対象項目、その定義、統計方法を標準化し、価格設定の基本ともなりうるような信頼性を確保するための調査、検討が行われています。

●2002年春の戦略会議：STMとして戦略的に優先して取り上げるべきテーマを4年毎に見直す会議が2002年春予定され、会員各社からの幹部の参加が呼びかけられています。

なお、STM日本選出理事および日本部会の部会長ポストは、先のFBF年次総会で佐藤政次の任期が満了した後、後任者が決定するまで空席となっています。

(日本部会長 佐藤 政次)

Frankfurt Book Fair 2001 雑感

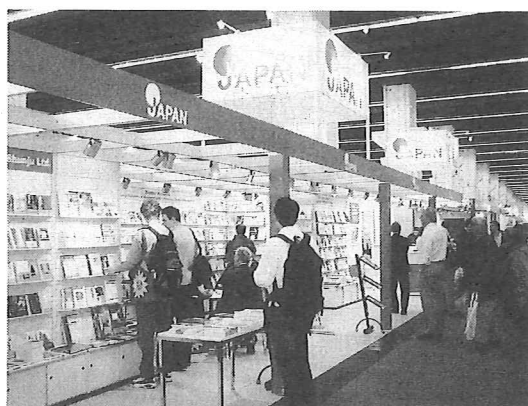
一瞬水を打ったような静けさ。ざわついていた会場にアナウンスが流れる。全員その場で黙祷。これはフェア2日目、あの米国テロ事件勃発から1ヵ月目にあたる10月11日の一コマです。しかし、これが今年のブックフェアを象徴していました。

米国で起きたテロ事件ならびに炭そ菌騒ぎの中で行われた今年のFBF2001 (Frankfurt Book Fair) は、10月10日から15日まで行われました。会場入口では手荷物の厳重な検査が行われ、普段でもごった返している入場口は人の長い列ができておりました。しかし、一旦会場に入ると、例年の賑やかさはなく、静かなブックフェアというのが第一印象でした。

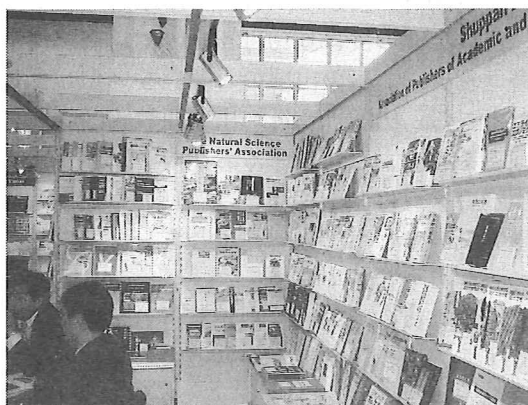
例年になく穏やかな天候に恵まれたことは別に、特に印象的だったことを二、三挙げます。

●アジアの出版社のエネルギー

中国、韓国、タイ、マレーシアなどアジアの人の元気なこと。特に会場の何処に行っても中国語が聞こえるといわれるぐらい、中国の活躍が目立った。中国は最近まで、国がら



日本ブース



展示小間の様子

みの違法出版を指摘されているのにもかかわらず、出版に対する潜在エネルギーは相当なものがあり、いずれわれわれ自然科学の出版社のパートナーになるであろうことを強く感じました。

●電子出版の変貌

昨年まで見られたCD-ROMをはじめとするパッケージ商品がなくなり、またeBookのトーンが下がっていました。一方、オンデマンド出版に対する取り組みを多くのSTM系出版社で熱く聞くことができました。

●あの出版社は何処に

一時の勢いはありませんが、欧米の出版社のM&Aはいまだに続いております。一方、小規模な出版社がニッチな領域で生き生きしているのを見ると、つくづく「出版はコンテツ」と思った次第であります。

●出版文化国際交流会ブース

掲載しました写真から様子をお窺いください。交流会の話ですと、アジアの出版社からの著作権交渉がいくつかあり、各社にご案内したそうです。次年に期待！

(丸善 松嶋 徹)

販売・出展委員会の活動

第10回台北国際図書展示会が、2002年2月19日(火)～24日(日)に台北世界貿易センターで行われます。詳細につきましては、会報2001年No.3でご報告した通りです。

当協会理事長より10月30日付で「自然科学書コーナー」への出展のお願いをいたしましたところ、出展社33社、出展冊数約200冊の回答を賜りました。厚くお礼申し上げます。現物の搬入は、予定通り(株)トーハン海外事業グループへ搬入を完了しました。ご協力ありがとうございます。

総務委員会で同展の視察旅行も企画しております。ぜひ、ご参加のほどよろしくお申し込み申し上げます。

東京国際ブックフェア2002(4月18日(木)～21日(日))の出展の準備も進行中で、スケジュールは以下の通りです。ご協力をよろしくお申し込み申し上げます。

●出展明細書提出：12月5日(水)→自然科学書協会事務局宛

●出展図書送付先：2002年4月9日～4月12日の間にコロナ社宛

(71社2,531冊の出展申込を受けております)
(販売・出展委員会委員長 牛来 辰巳)

協会忘年会開催される

当協会の忘年会がさる12月6日(木)18時より東京会館(千代田区)11階ゴールドルームで開催された。当日は、会員社ならびに各専門委員会委員、取次・関連業界の方を加え102名の参加があった。朝倉理事長、来賓の日本出版販売(株)橋昌利常務取締役の挨拶に続き、(株)トーハン本川幸史書籍営業部長の乾杯の発声で会は始まり、和や

かな歓談が行われた。5年連続前年割れの出版業界だが、その歯止めの年にしたい思いにあふれた忘年会であった。

(総務委員会委員長 長 祥隆)

【今後のスケジュール】

◆新年会員集会

日時：2002年1月17日(木)12時～

場所：出版クラブ

◆東京国際ブックフェア2002

日時：2002年4月18日(木)～21日(日)

場所：東京ビッグサイト

【会員動向】

◆2001年11月9日、克誠堂出版株式会社 代表取締役・今井彰氏のご逝去。

◆2001年11月19日、株式会社地球社 代表取締役・戸田實氏のご逝去。

【当会代表者変更】

◆克誠堂出版株式会社より、当協会代表者の変更届けがあった。

旧代表者 今井 彰

新代表者 今井 良

【社名変更】

◆株式会社シーエムシー → 株式会社シーエムシー出版

編集後記

◇ 電車内7人掛けの座席で、少なくとも1人は携帯電話を握りしめ、しきりに指を動かしている。数年前、マンガばかり読んでいた若者を苦々しく思っていたが、今、マンガでさえも読んでいた姿を見れば、何かホッとする。そんな読者の本離れの現況に、“一丸となって不況反転の年に”と年頭に当たっての朝倉理事長のあいさつの他、“ポスト再販時代の課題”として、志村専務理事より、いろいろな角度から提起をいただいた。

◇ 当会報は、年4回遅れることのないよう定期的に発行しています。記事がマンネリにならないよう編集委員会で努力していますが、皆様方からご意見・ご要望をお寄せいただき、斬新な紙面作りをしていきたいと思っています。ご協力。(A. I)

第51/52期広報委員

<担当常務理事> 今井 康之(岩波書店)

<委員長> 江面 竹彦(産業図書)

<副委員長> 平田 直(中山書店)

松嶋 徹(丸善)

<委員> 井上 昭彦(朝倉書店)

池田富士太(科学新聞社)

新谷 滋記(工業調査会)

相馬三喜男(南江堂)